

連作絵本 **想像**という現実～8

# 希 望



東郷 潤

殺人の罪で裁かれ、独房で一人死刑を待つ囚人がいます。





**あやまれ！ 反省しろ！**



**遺族や社会の人々は、彼が自分のやったことに直面し、反省し、謝罪することを切に願っています。**

しかし彼は、想像の世界に閉じこもっています。



絶世の美女に囲まれ・・・、オリンピックで優勝して・・・、いつもそんな想像の中で生きています。

彼はなぜ想像の世界に閉じこもっているのでしょうか？

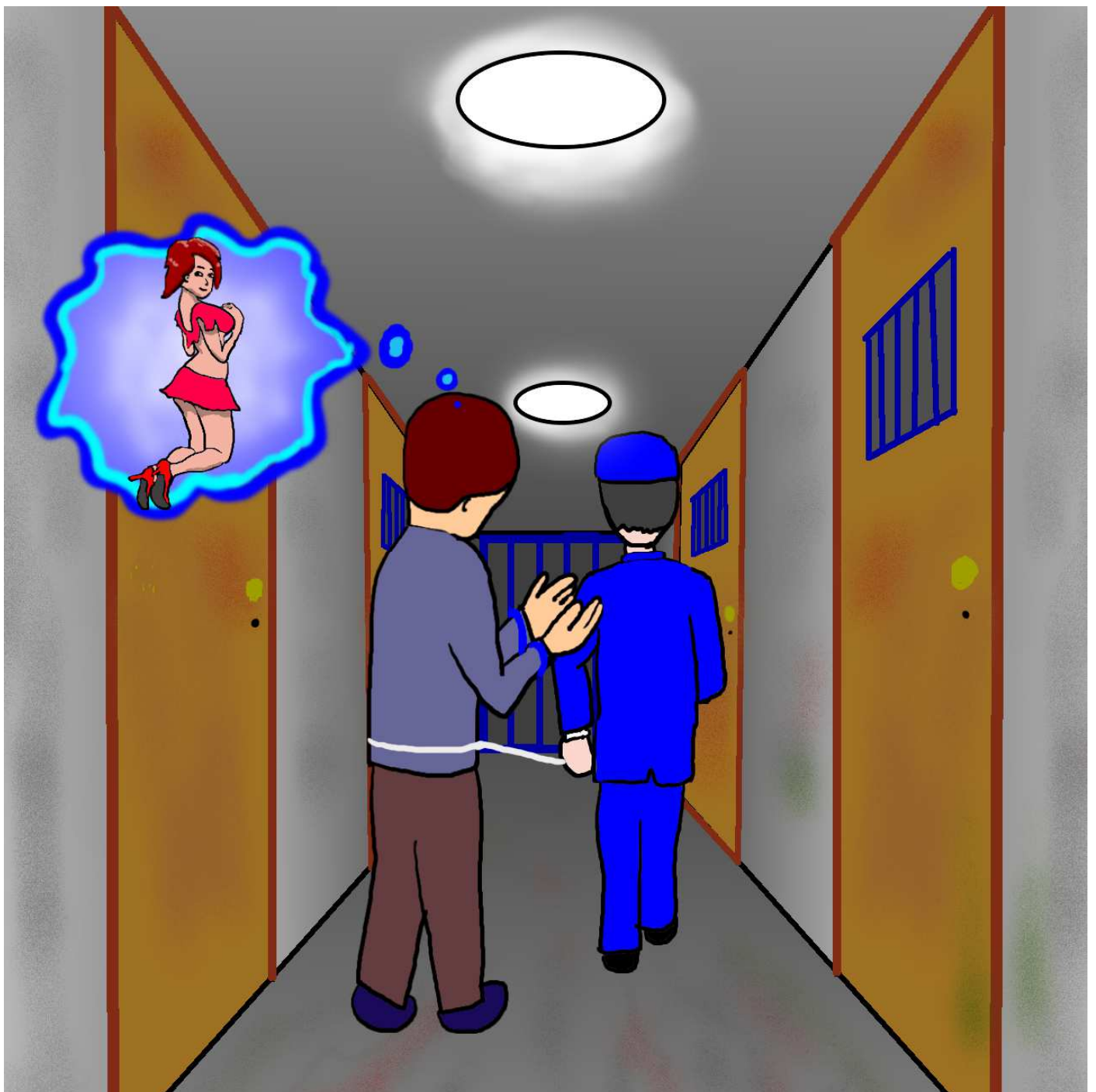


・・・それは彼にとっての現実が、あまりにも辛いから。彼にとって現実は、鉄格子、遺族からの憎しみ、死刑へのカウントダウン。これだけです。

おい、出ろ



想像の世界を捨てて、現実に戻ったとしても、そこに温もりはありません。愛はありません。光はありません。希望はありません。



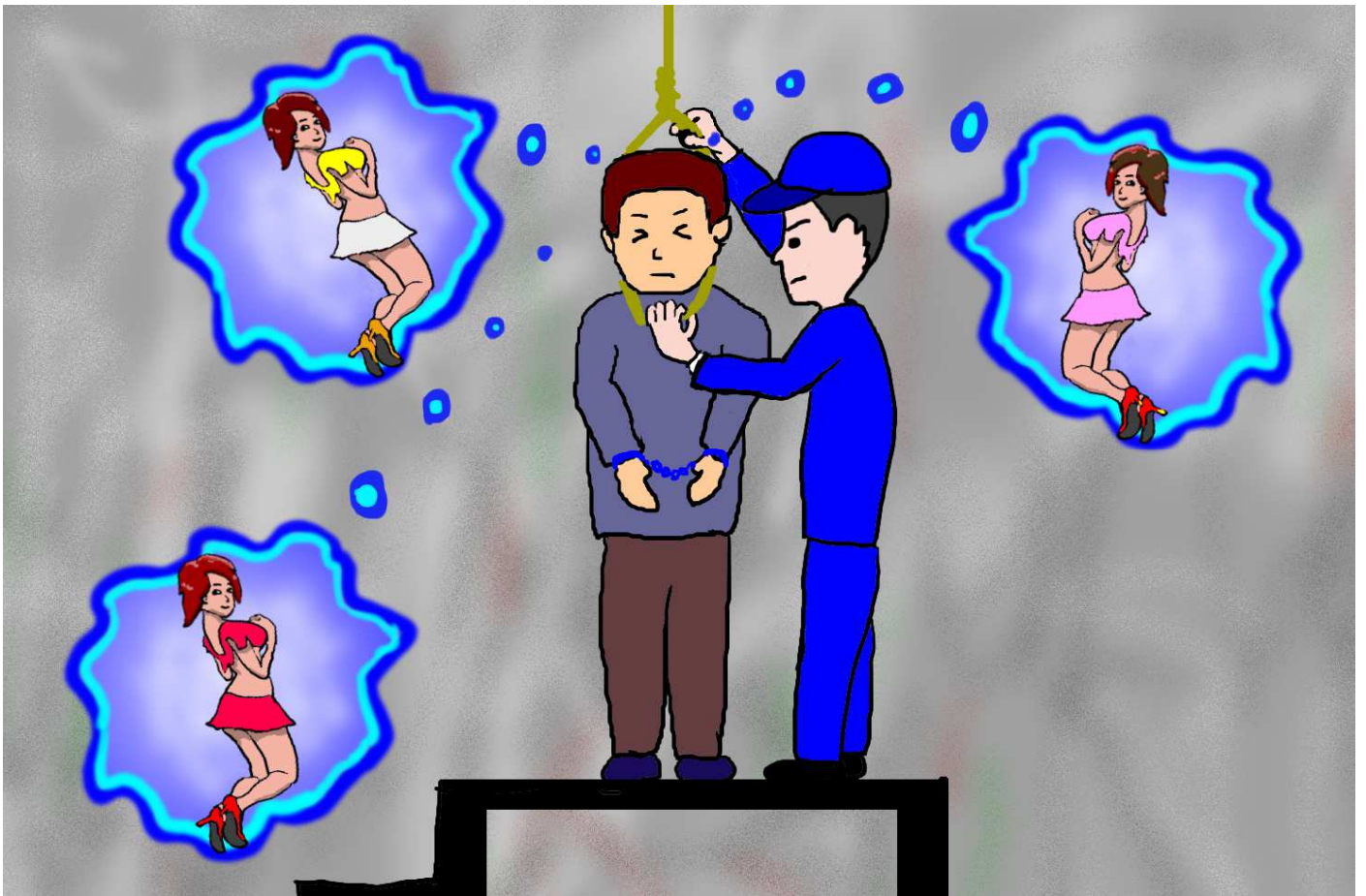
ねえ、あなた。



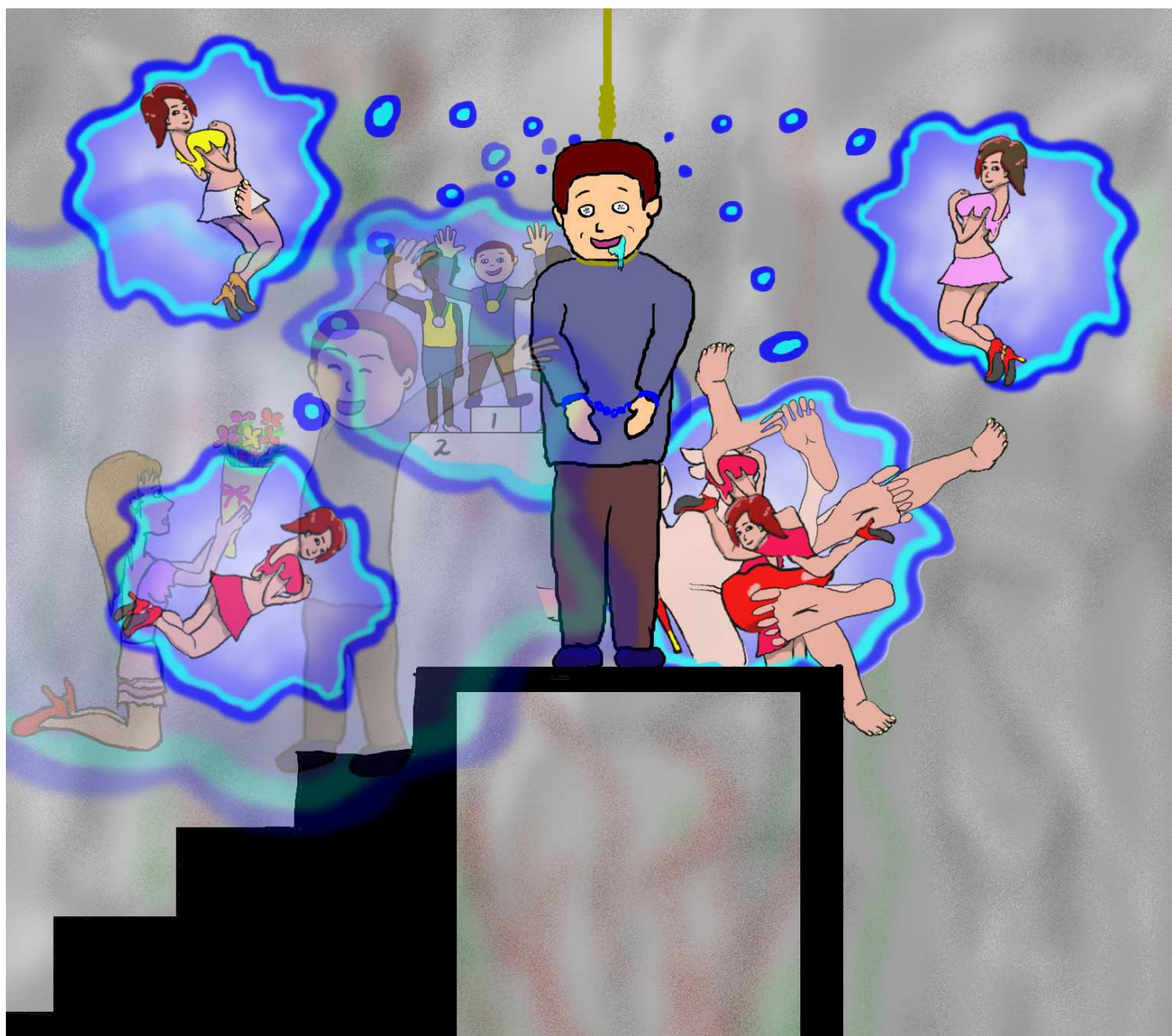
想像の世界に閉じこもっている人を殺  
しますか？



ねえ、あなた。

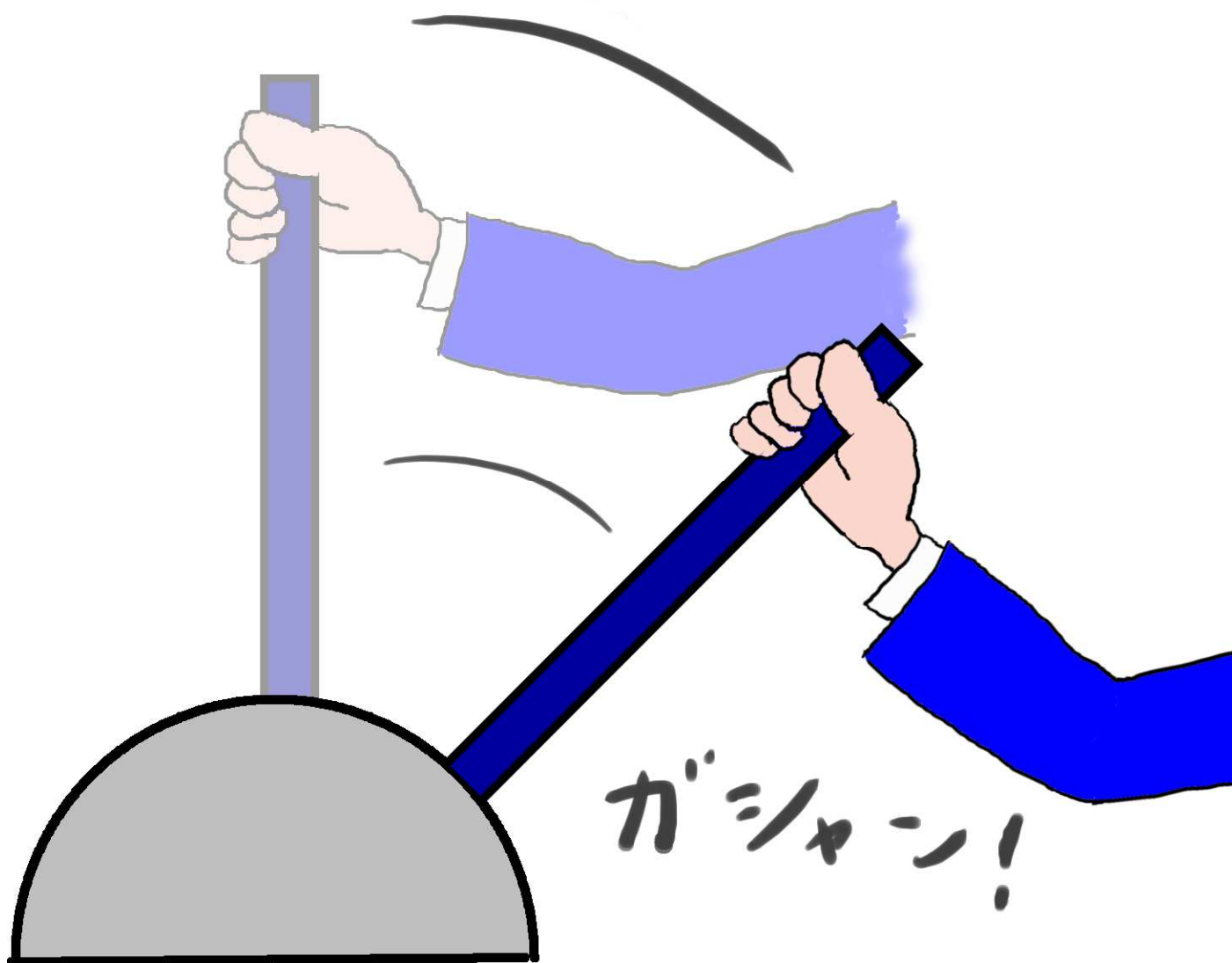


殺人者に、自分が犯した殺人という行為に、きちんと向き合ってもらいたくはないですか？ 本気で反省・謝罪してもらいたくは無いですか？ その反省を、次の犯罪予防へと役立てたくはありませんか？



もしあなたが、彼が事件と直面することを望むなら、まず彼を想像の世界から、現実世界へと呼び戻すことが必要ではないでしょうか。

想像の世界に逃げこんだ人々を、  
現実世界に呼び戻すのは、  
さらなる**絶望**ですか？

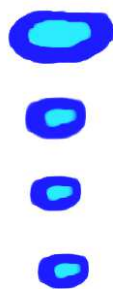




それは現実世界の、1 片の  
**希望**ではないのでしょうか。



あなたは、どんな想像でも  
出来るから…



## あとがき —絵本「希望」

もし、あなたがこの絵本に共感されたのなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることが出来ます。

[www.j15.org](http://www.j15.org)

©Jun Togo 2010